

ナガノさんたいそう



いちにー



さんしー



ごー



ろく



ひち



はち



ろく



ひち



はち



さんにー



さんし



ごー



にーにー



さんし



ごー



ろくひち



はち



ナガノさん

ナガノさん

まっちゃんアイス巻

中川ひろたか 作 長谷川義史 絵



「ちりんちりん! アイスクリーム!
ちりんちりん! アイスクリーム!」

こどもたちが あそんでいる ひろばに
きょうも アイスクリームやさんが
やってきました。
「あ、アイスクリームやさんだ」
こどもたちは、みんな あそびを やめて
アイスクリームやさんのところに あつまります。

「お、みんな きたね。きょうはね、とくべつ。
まっちゃんアイスがあるよ。これ、めっちゃ うまいよお」
「じゃ、おれ、まっちゃんアイス」
「わたしも」「ぼくも」
みんな まっちゃんアイス たのみました。



「ほんとだ。おいしいね」
「この まっちゃんアイス、やばい」
「こんなん、はじめてだった」

「ありがとね。また、どようびに くるからね。
それまで おてつだい いっぱいやって、
おこづかい ためといてね。じゃね、バイバイ。ありがとう」

アイスクリームやさんは チリンチリンと ベルを
ならしながら、となりまちに むかっていきました。



とそこに、ナガノさんが
ポケットに てを つっこんで あるいてきました。
「あ、ナガノさん」
「ナガノさーん」

ナガノさんは えほんとか かみしばいを つくるひとで
こどもたちの にんきものです。
いつも、こどもたちに へんなことを 言って わらわせています。



「みんな、なに たべてるの？」
「まっちゃんアイスだよ、ナガノさん」
「へーそーかい」
といて、おへそを ポリポリかきました。
「な～に、それ」

「まっちゃんのアイス？ こりゃ、まっちゃん しつれい」
「ナガノさんの だじゃれだ！ はなつまめ！」
ナガノさんの だじゃれが でしたら
はなを つままないといけない
こどもたちの ルールが あるのです。

